

「第2期鳥取城跡周辺にぎわい交流ビジョン（素案）」市民政策コメントに対する市の考え方

- ・実施期間：令和6年12月23日（月）から令和7年1月14日（火）まで
- ・意見応募者数：18名
- ・意見等の総数：63件

区分1	区分2	意見要旨	市の考え方
1.ビジョン全体について	1.基本姿勢	・ビジョンの実現及び城跡一帯のにぎわい創出に向けて、どのような施設を整備し、どのように活用していくのか、しっかりと議論してから事業の具体的な計画を立ててほしい。	<p>第2期ビジョンは、これまでの取り組みや、現状・課題などを踏まえた、今後10年間での中長期的にめざす姿をお示するとともに、そのめざす姿を市民や地元関係団体等と共有し、一貫性のある取り組みとするために策定するものです。</p> <p>めざす姿の実現に向けて、行政だけでなく、市民や地元関係団体等が一体となった推進体制が重要と考えます。また、施策の実施や事業の具体的な計画にあたっては、地元地域の意向等もしっかり踏まえながら進めていくことが必要と考えます。</p> <p>今後、こうした考え方のもとに、鳥取城跡周辺のまちづくりに取り組んでまいります。</p>
		・事業（城跡整備は除く）を早く進めることより、課題を解決するために現状を深く掘り下げ、現実を見据えた将来像をしっかりと描くことが重要。	
	2.連携体制	・議論に加えてもらえれば、地元地域として色々と協力できることがある。	
		・城跡を市民の憩いの場、観光資源として、一層グレードアップした地域資源としていくためには、官民連携による新たな発見や価値を創出していくという考え方が重要。	
		・点ではなく、面的で捉え、周辺の民間施設や民間の取り組みと連携する仕組みづくりが必要。	
	3.周辺エリアとの連携	・「鳥取駅周辺再生基本計画」と同時期に実現すれば、鳥取駅から久松山までの絵が描け、「ワクワク」するビジョンになると思う。	
		・「鳥取市中心市街地活性化基本計画」や「鳥取駅周辺再生基本計画」を統合した市街地全体のランドデザイン、マスタープランを立案してほしい。	
		・鳥取駅周辺と城跡周辺を核とした「二核二軸」に加え、旧袋川の桜土手や「放哉の小径」「民藝館通り」などを含めた「歩いて楽しいウォーカブルなまちづくり」を推進してほしい。	
		・対象エリアが城跡から片原通りまでとなっているが、本来の城下町エリアである袋川まで対象エリアを広げるべき。城跡だけでなく、城下町も一体的に考える必要がある。	
		・「城跡周辺エリア」はまちなかや鳥取駅周辺と繋ぐ重要なエリアであるが、素案では具体的な施策などが検討されていない。「城跡エリア」からも行きたいと思わせるもの、例えば城下町を実感させる薬研堀跡を復元してはどうか。	
・「鳥取駅周辺再生基本計画」が策定されているが、別々の計画として実施するのではなく、連携して効率よく実施してもらうことを希望する。			
	・鳥取駅に着いた観光客に、城跡へ行きたいと思わせる仕掛けが必要。		

区分1	区分2	意見要旨	市の考え方
1.ビジョン全体について	4.観光拠点としての整備	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡周辺は、歴史、文化遺産を生かして鳥取砂丘と並ぶ一大観光拠点とすべき。 ・観光拠点とするには、駐車場の整備・拡大、鳥取城に特化した資料館設置、観光ガイド、土産店併設のカフェ設置などが必要。 ・観光客の多くが1時間程度散策したら帰ってしまうため、残念に思っている。観光客にもっと楽しんでもらえる場所にしてほしい。 ・堀端から旧・営林署までの道路（東町二丁目・三丁目）をふれあいゾーンに指定し、当時の城下町の雰囲気を作り出してはどうか。 ・市民に対しては、より来てもらうための工夫が必要。（散策コース、体験コンテンツの充実など）観光客に対しては、周辺エリアを含め1～2時間以上滞在できる仕組みづくりが必要。 ・観光資源の少ない鳥取市において、潜在的な価値がありながら活用されてこなかった鳥取城跡の魅力を向上させることは、鳥取市の活性化のために必要不可欠。 ・今後城跡エリアは、仁風閣、鳥取県立博物館など一体となった全国にも見劣りしない観光地になり、大きな“核”となる。鳥取砂丘と合わせて多くの観光客に来てもらえると思う。 ・来訪者に「鳥取城跡ロマン」を感じさせる仕掛けが必要。 	3. (4) 「重点エリアにおける基本方針・ゾーニング」に記載の3つの基本方針のうち「1.文化財の保存・活用」のとおり、城跡周辺の歴史的・文化的価値を磨き上げ、観光資源として活用していく考えです。
	6.その他	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客がどのくらい来ているのか、分析することが必要。（内外国人は何人か、目的は何かなど） ・鳥取城跡を活かしたまちづくりのはずだが、城跡整備が主目的になっているような印象を受ける。 	<p>城跡周辺においては、宝珠橋に令和5年7月からカウンターを設置し、観光入込客数を計測するとともに、仁風閣（現在はガイダンス施設）では外国人観光客数なども把握しています。引き続き、城跡を訪れる観光客の動向の把握・分析に努め、情報発信やプロモーション活動等に活用してまいります。</p> <p>城跡整備（文化財の復元・整備等）は、城跡周辺における自然・歴史・文化をいかしたまちづくりの核となる取り組みにあたるため優先的に行っていますが、整備された城跡を中心にまちづくりが行われるよう考えています。</p>
2.文化財の保存・活用・維持管理	1.文化財の復元整備	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず二の丸三階櫓を復元してほしい。 ・太鼓御門や二の丸三階櫓など、「観れるもの」を早期に復元することが大切。 ・最も優先して実施すべきは、シンボルとなる二ノ丸三階櫓の復元と考える。 	二の丸三階櫓は、各種規制との調整及び地盤調査などによる復元の可否を含め、早期実現を目指して詳細な調査・検討を進めてまいります。
	2.文化財の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構の復元工事は、城下町と一体的にPRすべき。 ・遺構の復元整備の進捗に合わせて、鳥取の歴史・文化をPRしてはどうか。 ・遺構の復元と並行してプロモーションが重要と考える。（「桂蔵坊きつね」をモチーフにキツネのキャラクターを提案したい。） 	これまで市の公式ウェブサイトや鳥取市観光サイト、SNS、市報、ラジオ、市広報TV番組などの各種方法媒体を通じた広報や、市民フォーラムやイベントの開催、国内外の旅行会社へのPRなど魅力発信に努めてきました。引き続き、魅力発信に努めてまいります。
	3.文化財の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・城跡内をめぐる散策コースを作成してはどうか。 ・宝扇庵を休憩できる場所として無料開放してほしい。さらに、土日にはお茶が飲めるようになれば、滞在時間の延長も期待できる。 	ご意見として承ります。
	4.その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「鳥取城関連古文書」についても記しておくべき。 	

区分1	区分2	意見要旨	市の考え方
3.城跡にぎわい拠点の整備	1.整備方針	・東屋周辺の昔ながらの雰囲気や、広々として開放感のある久松公園の良さは今後も残してもらいたい。	いただいたご意見も含め、整備方針及び情報発信・資料展示の方法などについては、今後、設計段階で検討してまいります。
		・小規模だと経済効果は見込めないが、景観・利便性を考慮すれば小規模でも整備することは有効。	
		・城跡周辺の今後の目標来場者は、どの程度見込んでいるのか。来場者が少なればビジターセンターの費用対効果は小さく、物販施設等は採算が合わない。	
		・現状と同程度の来場者数だと収益性は見込めないため、すべてが常設でなくてもよい。	
	・ビジターセンターは点ではなく、線そして面となる施設として位置づけるべき。（鳥取砂丘と鳥取市内を結ぶ役割）		
	2.情報発信・資料展示	・久松山一帯の歴史に関する資料が展示されるのであれば興味深い。	
・鳥取城や池田家の歴史を学ぶことができる展示があればよい。			
・城跡エリアに麒麟獅子を紹介する館を作り、日本遺産への理解を深めてもらうとともに、集客の核にしてはどうか。			
3.整備スケジュール	・鳥取城の成り立ちを時代（城主）ごとにパネルにして絵巻物のように展示してはどうか。		
	・渡櫓門が完成間近のため、可能な限り整備を早めてほしい。	ご意見として承ります。	
4.その他	・複合型ビジターセンターを「鳥取城タイムリープステーション（TTRS）」と名付けてはどうか。	ご意見として承ります。	
4.アクセス手段の拡充	1.駐車場の整備など	・駐車場が不足している。	アクセス手段の拡充については、ウォーカブルなまちづくりの観点より、市内100円循環バスやレンタサイクルの活用、まち歩きの推進等を図り、回遊・滞在性を強化していく考えです。しかしながら、2.（3）「現状・課題」及び「求められる施策の現状・課題」に記載のとおり、駐車場の不足については課題の1つであります。そのため、令和6年4月から城跡周辺の有料駐車場の満空情報と、市内100円循環バス（くる梨：緑コース）の運行情報等をリアルタイムで確認することができる「鳥取城跡周辺駐車場満空情報確認システム」の運用を開始するなど、パーク＆ライドの推進により対応しています。また、大型観光バスについては、わらべ館及びやまびこ館駐車場を待機場所として活用していません。
		・来場者数が増える場合、素案に示すパーク＆ライドの推進で賄えるのか。	
		・城跡へアクセスの良い大型の駐車場整備が必須。	
		・営林署跡地や法務局などを活用し、可能な限り駐車場を確保してほしい。	
		・便利なところに駐車場がないのは致命的。	
		・大型バスでも駐車できる駐車場の整備が必要。	
・来場はマイカー又は観光バス利用が考えられるが、近隣に駐車場を確保できる場所がない。（駐車してから徒歩で5分以上かかる場所は適していないと思う。）			
・営林署跡地を駐車場として活用してほしい。駐車場とした場合は、くる梨のバス停を設け、まちなかへのパーク＆ライドにも活用できる。			
・駐車場を増やしてほしい。			
2.パーク＆ライドの推進	・バスの自動運転やレンタサイクルなど、パーク＆ライドに対する考え方を記載してもらえないか。	いただいたご意見を踏まえて、3.（6）「主な実施施策の概要」に「城跡へのアクセス手段の拡充」に関する記載を追加いたします。	
3.その他	・花見やライトアップの時期などは、路線バスを増便してはどうか。	ご意見として承ります。	
	・にぎわいを創出するためには、城跡へのアクセス手段の拡充が必要。		

区分1	区分2	意見要旨	市の考え方
5.案内・解説機能の拡充	1.案内・解説板の充実	・海外の観光客の方々にも理解できるよう、ガイドンスが必要。	外国人観光客につきましては、音声翻訳機能付きウェブサイトなどを活用し対応しています。引き続き、ガイドスタッフの育成など、外国人観光客の受け入れ態勢づくりに努めてまいります。
6.イベントや体験コンテンツの拡充	1.観光ガイド等の養成	・市民参加を促し、城下町の歴史を伝える人づくりのための「鳥取学講座」を企画してはどうか。	ご意見として承ります。 なお、本市では、平成17年から「鳥取市観光大学」を開校し、歴史・文化・観光資源等の知識を深め、観光客のおもてなしのできる人材育成に努めています。
	2.イベントの充実	・お城巡りファンにとっては、鳥取城跡の夜のライトアップは素晴らしく、ほかのお城と比較しても勝るとも劣らない。	引き続き、城跡エリアの魅力を発信する取り組みとして、ライトアップの継続に努めてまいります。
7.その他	1.近隣公共施設の活用・連携	・久松小学校を他小学校と統合し、跡地を「駐車場・複合型ビジターセンター」や「地元物産販売店」「様々な展示施設」などの建設用地として活用すれば、にぎわいと経済的波及効果をもたらすことができると考える。	近隣公共施設の活用・連携は重要と考えますが、学校の適正配置につきましては、子どもたちの教育環境の充実を第一に、保護者や地域住民の思いに配慮しながら議論を進めることが必要と考えます。 本市では、令和3年3月に「鳥取市立学校適正規模・適正配置基本計画」を策定しました。この基本方針に基づき、学校のあり方（適正配置・適正規模）については、地域住民・保護者・学校関係者による議論を行っていただき、その議論を尊重して、本市教育委員会において決定していくこととしています。
		・近隣の公共施設（久松学校や法務局）が移転した場合は、跡地を資料館や飲食・物販施設、駐車場として活用でき、城跡エリアの目玉施策にもなる。	
		・久松小学校を他小学校と統合し、跡地を大型の駐車場として活用してはどうか。	
	2.地元事業者の参画	・法務局が移転した場合、跡地に鳥取城を望む低層のホテルを誘致してはどうか。（イメージはANAクラウンプラザホテル松山やザ・シロヤマテラス津山別邸）	ご意見として承ります。
3その他	・地元へ経済的波及効果をもたらすためには、“市民全体で創り上げる機運”を高め、遺構の復元工事、施設の設計・施工や施設管理・運営へ地元業者の参画を促すことが必要。	本市が発注する事業においては、経済的波及効果の観点からも地元事業者の参画は重要と考えます。各事業における公募要件等については、事業の内容を踏まえて適切に検討してまいります。	
		・久松公園内へベットの連れ込みが出来ない。一律に禁止ではなく、リードをつける、排泄物の後始末をすることなどを条件に、連れ込み出来るよう検討してほしい。	ご意見として承ります。